

平成26年度文部科学省大学教育再生加速プログラム(テーマI)選定事業

生涯学び続ける自律的な アクティブ・ラーナーの育成をめざして

■ 知の創成拠点としての能動的学修の推進

県立広島大学長 中村 健一



県立広島大学は、2005年、広島市、三原市、庄原市に存在した広島県内の3大学統合により、「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を基本理念とした新大学の歩みを開始しました。以来、10年間の地域との関わりにおいて、県民に信頼される上で最も大切なミッションは、地域に誇りうる確かな人材育成にあるという確信に至りました。そのため、2013年度よりスタートした第二期中期目標においては、「グローバルが進む社会経済環境の中で、企業や地域社会において活躍できる実践力のある人材の育成」をトップスローガンに掲げ、全学を挙げて教育への取り組みがなされています。

その実現にあたっては、教育改革推進委員会を学長直轄として設け、教育改革の推進を進めています。実施過程で得られた共通意識は、グローバル化の進展した社会において、大学教育に求められているのは、『命題知』を古典的に修得させる従来の教育に留まらず、『応用知』あるいは『実践知』の涵養が極めて重要であるという認識でした。

能動的学修の推進はそうした目的を果たす上で求められる必然的活動であり、能動的学修推進に焦点化した取組への検討がなされました。その結果、フィールドワークなどの教室外の学修に基づいた行動型学修と、双方向授業や反転授業など教室内での知的能動性を育む参加型学修の融合を基本とした、能動的学修教育プログラムを構築することができました。幸いこの教育プログラムは、平成26年度の文部科学省助成事業である「大学教育再生加速プログラム」の採択に至り、現在着実にその推進がなされています。私達は、学内外の多くの方のご協力の下、全国大学の先駆的模範例となる、効果的な能動的学修を推進する実践活動を目指しています。皆様からの幅広いご支援を宜しくお願いします。

■ 県大流 学びのスタイルとは

AP 事業推進部会 西本 寮子

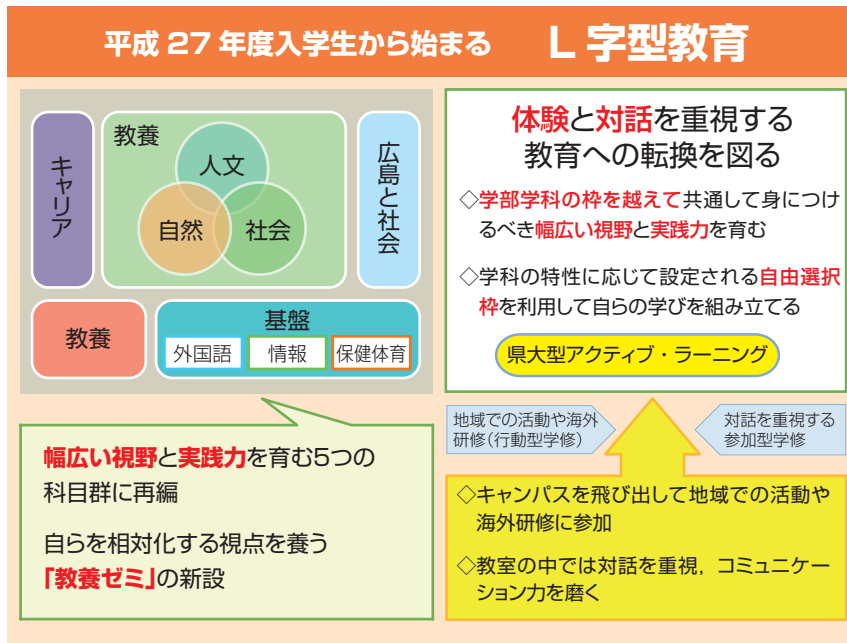


ますます多様化、複雑化し、先が見えない現代社会にあって、答えのない課題に果敢に立ち向かう力を身につけることが大学教育に求められています。本学では、特色ある4つの学部で学ぶ学生たちが生涯にわたって学び続けるアクティブ・ラーナーとしての資質を身につけられるようアクティブ・ラーニングを計画的に導入します。

対話を重視した双方向授業を取り入れるアクティブ・ラーニングの方向性はふたつ。時には教室を飛び出して地域の課題と向き合う行動的学修、ディスカッションなどを通じて意見を交わし、なにより自己との対話を通じて主体的に学ぶ意欲を引き出す参加型学修。これにより学生たちの知的能動性を揺り動かし、深い学びを喚起します。それぞれ100km離れた3つのキャンパスと広島市内中心にあるサテライトキャンパスを舞台として学生の主体的学びを引き出す能動的学修、それが私たちがめざす県大型アクティブ・ラーニングのかたちです。

平成 27 年度から新しい共通教育が始まります。

アクティブ・ラーニング科目を全学年で開講する 3 種の体系的な学士教育課程プログラム（①全学共通教育 ②専門教育 ③領域横断・学部横断型教育プログラム）を導入します。幅広い履修を可能とする仕組みから学生が自らの学びを選択することで、みなさんの知的能動性を引き出し、みなさん自身が深い学びを実感できる自律的な学びのスタイルの獲得をめざしています。



行動型学修



参加型学修



① 全学共通教育

全学共通教育では、主として「幅広い教養」を身につけることを目的としています。

大学教育全体の「基盤・基礎」にあたるコア科目群、自らの専門領域に偏らない「教養」を身につける科目群を、バランスよく配置しています。例として以下のような科目を開講しています。

大学基礎セミナー 大学における勉学の進め方の基本となる主体的・能動的学修に必要な技能を修得し、課題解決のための思考能力を培います。

地域情報発信論 中国新聞社の御協力を得て、地域に密着したテーマについて取材・記事の編集・発信に至る一連の流れを体験しながら、情報の発信力を身につけます。



全学共通教育科目「地域の理解」における安芸高田の神楽の体験

② 専門教育

それぞれの特色と強みを生かし、「高度な専門性」を担う各学部・学科の専門教育では、平成 25 年度からミッションに沿った教育課程の体系化を進めています。

③ 領域横断・学部横断型教育プログラム(Campus-Linkage Program)

従来の教養教育・専門教育という区分や学問領域に捉われず、学生が専門教育と並行して自らの学びを選択することで、幅広い視野やグローバルな視点を育て、関連領域の学びを促進するためのプログラムです。一例として以下のようなプログラムがあります。

異文化間コミュニケーション認定プログラム

多様化する国際社会において、文化的背景の異なる人々と共に未来を切り拓いてゆける、異文化に対する理解力やコミュニケーション能力を身につけた人を育成します。

生涯学び続けるアクティブ・ラーナーになるために

大学での学修が高校までの勉強と大きく異なる点は、周りが与えてくれるものを吸収するスタイルから、問題意識を持って自発的に課題に取り組む姿勢が不可欠になるということです。

高校時代と同じようにびっしりと時間割を埋めることは、お勧めできません。できれば空き時間をいくつかつくっておきましょう。その時間に予習・復習したり、図書館や情報処理演習室で必要な文献を調べたり、先生の研究室を訪ねたり、わからない問題を友達と相談したりできるからです。

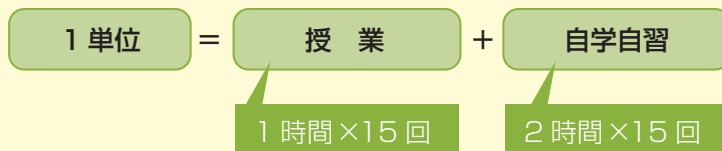
大学で授業を受けるうえで肝心なことは、多様な授業スタイルに慣れること、授業ごとに異なるルールを知ること、積極的に授業に参加することです。

単位を取ることは大学を卒業するために必要なことですが、それ自体が目的ではありません。本当に大事なことは、「授業を通してあなたの知識、技術、態度、価値観、感性を磨くこと」です。そして、学ぶおもしろさを感じることです。

単位制度と学修時間について

◆ 大学における学修時間の定義

- ・ 学生の学修時間(大学設置基準 第21条)



- ・ 日常時間と大学時間

日常の 1 時間 = 60 分

本学の 1 時間 = 45 分

県立広島大学：1 時間 45 分 ⇒ (90 分 × 15 回) + 授業時間の倍の自習 ⇒ 2 単位



◆ 学生の学修時間

- ・ 半期 20 単位の場合(2 単位 90 分)

大学における学修時間	自学自習時間	一週間の学修総量	一日の学修量
900 分(15 時間)	1,800 分(30 時間)	2,700 分(45 時間)	540 分(9 時間) ※週 5 日間の学修

●日本の大学のカリキュラムは上記の前提に基づいています。それぞれの授業で授業時間外に行う課題が出されます。しかし、教員は手取り足取り教えてくれるわけではありません。大学の授業は、教員の話を一方向的に聴いていけばよいのではなく、自ら主体的に学修し、自分自身で対話する姿勢を身に付けましょう。

●自発的に学ぶことは、自分の頭で考える習慣を身につけることです。そして学ぶ習慣をつけることは、大学を卒業後、どんな仕事に就いても不可欠となる要素です。自発的に学ぶ習慣は、大学での学修活動に应用できるだけでなく、卒業後の人生においても役立ちます。

1 目的

地域に軸足を置き世界を視野に活躍できる人材の育成拠点として、本学が掲げる人材育成目標の実現のために全学で取り組んでいる教育改革のうち、授業方法の見直し・改善と教育方法の充実・転換を目指したアクティブ・ラーニングの導入を加速し、学生の学修意欲を喚起し、主体性をはぐくむ教育を定着させることを目的としています。

2 具体的な実施内容

(1) 体系的に組み立てられた学士課程教育プログラムとアクティブ・ラーニング

全学共通教育は、大学教育の基盤をなす科目群と豊かな教養を身につける科目群に再編して、自らの学びを選択する仕組みを加えて、平成27年度からスタートします。

(2) 「主体的な学びを育む能動的学修」の実現を目指す「行動型学修」と「参加型学修」

「主体的な学びを育む能動的学修」を実現するため、教室の外で積極性を身につける「行動型学修」と教室内の学修で知的能動性を揺り動かし、深い学びを喚起する「参加型学修」を、教育目標と教育内容に沿って計画的に取り組むことで学びの質を向上させることを目指しています。

(3) 「支え合い、学び合う」人材育成の仕組み

授業改善を実践し、組織的・継続的に教育の質的改革をけん引するファカルティ・ディベロッパーを養成し、教員同士が支え合い・学び合う仕組みを構築します。



H26年度教育改革フォーラム(H27.3.7) 学生による公開ディベート

3 事業期間

平成26年度～平成29年度(4年間)

4 取組概要

大学等名 **県立広島大学**

テーマ **テーマI (アクティブ・ラーニング)**

取組概要 地域活動を組み込み、主として教室外で行う「行動型学修」と、学修者の知的能動性を揺り動かし深い学びを喚起する「参加型学修」を組み合わせた「能動的学修」を学士課程教育に計画的に導入して教育改革を進める全学的な取組である。これにより、幅広い教養と高度な専門性を備えた人材を育成し、生涯にわたり学び続ける自律的な学修者アクティブ・ラーナーの育成を目指す。

県立広島大学型 アクティブ・ラーニング Campus Linkage Active Learning (CLAL)

行動型学修 教室外

教室外での学びを取り入れる

- ・学生間交流
- ・地域との交流
- ・異文化交流

→各キャンパスに拠点を置いた地域活動



フィールドワーク
現場体験
インターンシップ
学修成果発表会

学生の主体性を育む能動的学修

参加型学修 教室内

知的能動性を揺り動かす

- ・協働学修
- ・反転授業
- ・プロジェクト学修
- ・双方向授業

→学修意欲・自主性を引き出す学びのスタイル



振り返り
プレゼンテーション
ディスカッション・ディベート
授業公開促進

学修支援

- ◇学修環境の整備
 - ◇学修環境を整備
 - ◇支え合いをリードする学生の育成
 - ◇教職員研修の充実
- 行動型学修実践支援 学修アドバイザー育成 ファカルティ・ディベロッパー養成



教育改革のSTEP

教学マネジメント

体系的な学士課程教育プログラム

教育方法の見直しと充実
授業方法の転換・改善

自己評価システム

生涯学び続ける自律的な学修者
【アクティブ・ラーナー】

	25年度	29年度
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合*	100%	100%
ファカルティ・ディベロッパー養成	0人	30人
学修アドバイザー育成	0人	55人

*29年度の数値目標はアクティブ・ラーニングを再定義した上での値である

学長のリーダーシップの下、教育改革に取り組む。本学での学びに対する学生の満足度を高め、卒業生の活躍により地域への波及効果を狙う。

- 教室外での学びを取り入れ、学修意欲・自主性を引き出す新たな教授法による授業外学修の充実を加速する。
- 知識を活かせる人材の育成を目指して、真の問題発見力や課題解決力、論理的思考力を育む。
- FD・SD活動の充実により、教職員の意欲を向上させる。目標を共有し、教育の質的改善に全学的・組織的に継続して取り組む。
- 学生同士が教え合うことで、学びを定着させる。

本学の取組に関するお問い合わせは、以下へお願いします。

県立広島大学 AP 事業推進部会

〒734-8558 広島市南区宇品東一丁目 1-7-1
e-mail kaikaku@pu-hiroshima.ac.jp